



水系消火設備のトラブルについて

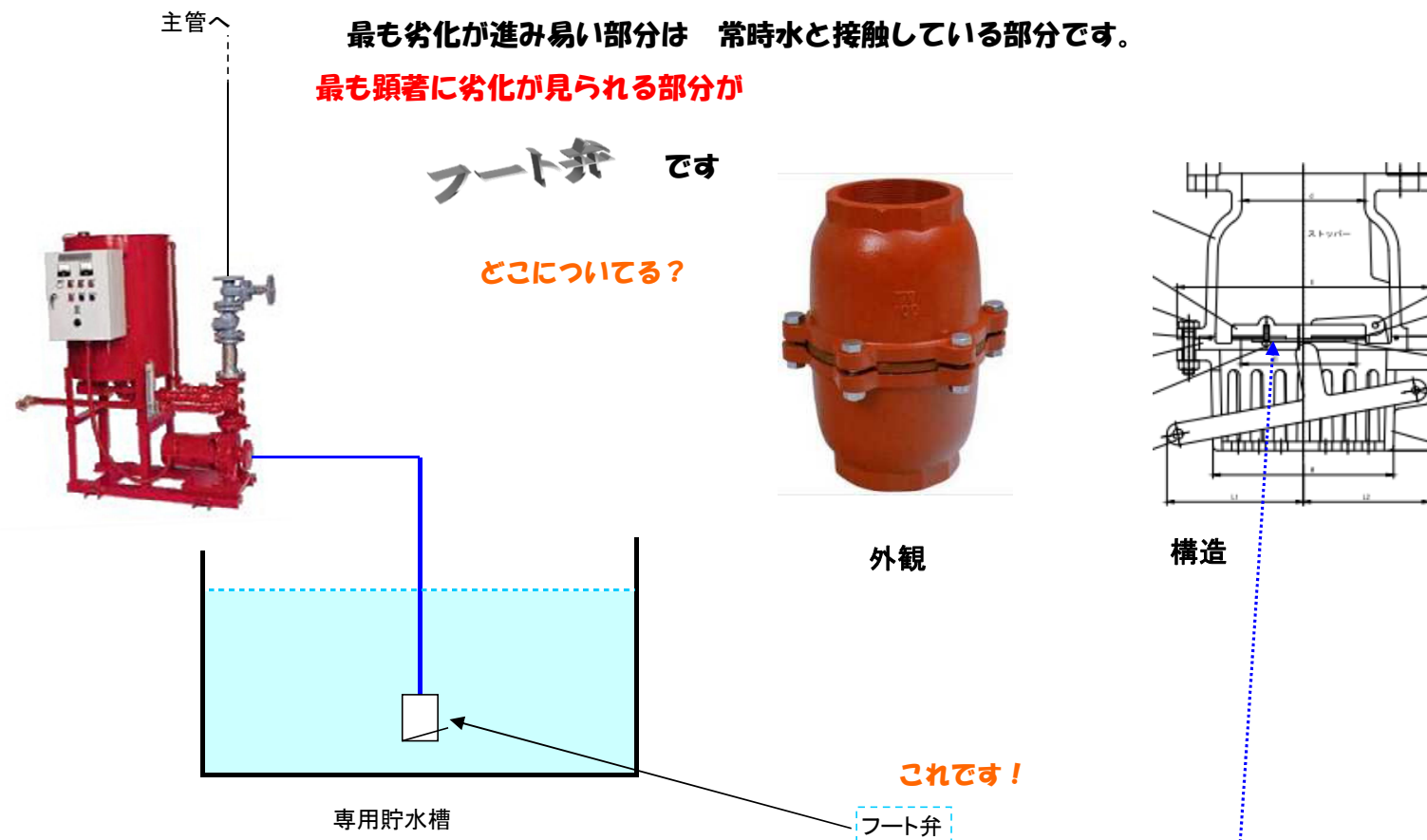
- 西日本防災システム

水を使用する消火設備 スプリンクラー消火設備 屋内消火栓設備 屋外消火栓設備 水噴霧消火設備 泡消火設備 などでは その標準構成として

● 専用貯水槽 (他の設備との共用の場合あり) ● 専用ポンプ ● 専用配管 などがあり、常時配管内に充水されている湿式方式の消火設備の場合、

様々なトラブルが発生します。特に経年劣化による腐食に係る不具合が多数発生します。

その中でも普段目にする事のない見えない部分での劣化について資料としてお伝えします。



最も劣化が進みやすい部分は 常時水と接触している部分です。

最も顕著に劣化が見られる部分が

フート弁 です

どこについてる?

外観

構造

これです!

フート弁

このフート弁は常に水中に位置しています。素材は 鋳鉄、ステンレスなどがあります。

内部に水の逆流を止めるための可動式の弁座があります。

エアを吸込まないように 部分に 呼水槽からの水を留めておく為に つけられるものです。





水系消火設備のトラブルについて

- 西日本防災システム



設置時は こんなに綺麗だったものが



全ての水系消火設備のポンプに設置されているものではありません。

ポンプが水源より高い(吸込み)場合のみで、ポンプと水槽が同レベル若しくは水槽が高い(押し込み)場合、フート弁はありません。

時の流れと共に

こんな姿に!



御注意ください!!

こうなりますと

弁の動きに障害が出て、しっかり閉まりきらずに呼水槽から

呼水が流れ込み、消火水槽の満水 呼水槽の減水 などの

警報が出る場合があります。

最悪のケースでは、消火ポンプが起動しているにも係らず

規定水量を吸込めない可能性もあります。



設備検の際、フート弁を開放してその動きと機能を確認

してください。

流量負荷テストでも確認はできます。

